

1 情報収集

テレビ・ラジオ・インターネット・アプリ等で雷注意報や竜巻注意情報などの気象情報を入手する。

●「雷注意報」発表時

●天気予報のキーワード

「大気の状態が不安定」「急な雨に注意」

「雷を伴う」「竜巻などの激しい突風」

◎管理職は、定期的に天気予報を確認するとともに空の様子を観察する。

◎天候の異変に気付いた教職員は、直ちに管理職に報告する。

◎中学校区で連携を取り、対応する。

【気象庁ホームページ】

防災情報→あなたの町の防災情報

①気象情報

②気象警報・注意報

③雨雲の動き→雷活動度

④竜巻注意情報

2 具体的対応

【屋外活動時】＊雷注意報の有無ではなく、雷ナウキャスト（雷活動度）や空の様子を確認し判断する。

気象状況の具体	教職員の対応	児童生徒の動き
○真っ黒な雲が近づき、周囲が急に暗くなる。 ○雷鳴が聞こえたり、雷光が見えたりする。 ○冷たい風が吹き出す。 ○大粒の雨やひょうが降り出す。 ○近くに雷が落ちる。	○管理職は、屋外で活動している学級や部活動に避難を指示する。 ○指導する教職員は、児童生徒を屋内に避難させる。 ・雷鳴が聞こえる。 ・雷光が見える。 ※降雨がなくても落雷はあることに注意する。	○教職員の指示に従い速やかに屋内に避難する。 ○まわりに教職員がいない場合には、自分で判断して速やかに屋内に避難する。

【下校時間帯】＊雷注意報の有無ではなく、雷ナウキャスト（雷活動度）や空の様子を確認し判断する。

教職員の対応	児童生徒の動き
○落雷が心配される気象状況の場合は、児童生徒を学校に待機させる。	・教職員の指示に従い、教室等で待機する。
○雷の活動が止む見通しが立たない場合は引き取り下校を行う。 ・日没時刻と自宅が遠い生徒の下校時間から逆算する。	・保護者とともに下校する。
○雷の活動が止む。 ・雷鳴が止まってから20分程度は落雷の危険があるため学校で待機させる。 ・次の雷雲が近づく可能性があることを想定し、速やかに下校するよう児童生徒に指示する。	・次の雷雲が近づく可能性があることを想定し、速やかに下校する。 ・下校途中で再び雷が活動した場合には、安全な場所（子ども110番の家、知り合いの家等）で待機する。

【冷静な対応】

複数で判断・情報共有

○管理職が判断→教職員に周知

○全校放送で児童生徒に連絡

○メールで保護者に連絡

【参考】文部科学省「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」（平成30年2月）

群馬県教育委員会事務局 「学校災害対応マニュアル（落雷・竜巻等突風編）」（平成26年5月）